

専門研究B

重度・重複障害のある子どもの実態把握、
教育目標・内容の設定、及び評価等に資する
情報パッケージの開発研究

(平成25年度～26年度)

研究成果報告書

平成27年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

特別支援学校においては、在籍する幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応し、一人一人の教育的ニーズに即した適切な教育や必要な支援を行うことが求められています。インクルーシブ教育システム構築が進む中、これは特別支援学校が果たすべき重要な使命です。学習指導要領に示されている「家庭や地域、関係機関と連携して個別の教育支援計画を作成すること」「個別の指導計画において、実態把握、指導目標・内容の設定、適切な評価と指導の改善という PDCA の過程をとること」等については、現在では、すべての特別支援学校において取り組まれている内容でしょう。

しかしながら、今、多くの学校現場で、特に重い障害のある幼児児童生徒について、適切な実態把握や評価、目標や教育内容の設定等に困難を感じている、という現実があります。学校でよく聞かれる声は、実態把握の視点がまちまちである、担当者によって指導内容や方法が変わる、ICF やキャリア教育の視点を重い障害のある子どもにうまく活用できていない、等です。

このような課題を受けて、本研究では、重い障害のある子どもの教育計画（個別の教育支援計画、個別の指導計画）における PDCA の過程に必要な視点や情報を提供する情報パッケージ「ぱれっと（PALETTE）」（試案）を作成しました。この情報パッケージの特徴は以下の4点です。

- ①「軸となる考え方」である「本人中心の計画（Person-Centered Planning）」に基づいて整理した情報や知見をパッケージとして提案したこと
- ②「手厚い支援を必要としている子ども」に焦点を当てたこと
- ③マニュアルではなく「教員が考えることをサポートするツール」を目指すこと
- ④子どもに関わる関係者が「共有できるツール」を目指すこと

本研究成果報告書では、情報パッケージ（試案）作成に至るまでの情報を整理し、また、作成した情報パッケージ（試案）について、研究協力機関で試行的にご活用いただいた成果や有用性等について検証しています。

本研究から生まれた情報パッケージ「ぱれっと（PALETTE）」が、多くの教育現場で活用され、手厚い支援を必要としている子どもの現在と将来を支える教育の営みに役立てていただけることを願っています。

研究代表者 企画部主任研究員 齊藤由美子

目次

はじめに

I. 研究の概要	1
1. 研究の趣旨及び目的	
2. 研究計画と方法	
3. 研究活動実施状況	
II. 現状と課題の把握	5
1. 学校現場等における課題の整理	6
(1) 学校訪問による観察と聞き取り調査	7
(2) 卒後の施設職員への聞き取り調査	
～重度・重複障害児が学校を卒業するまでに身に付けておくべき	
事項に関する聞き取り～	10
(3) 重複障害教育に携わる教員の専門性のあり方とその形成に関する一考察	
～複数の異なる障害種別学校を経験した教員へのインタビューを通して～	13
2. 文献の収集・整理	14
(1) 個別の指導計画導入の経緯と文献	15
(2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・実施プロセスにおける	
「本人中心の計画」アプローチの検討	20
III. 情報パッケージ（試案）の作成	25
1. 情報パッケージの構想	26
(1) 「軸となる考え方」に基づいて整理した情報や知見をパッケージ	
として提案することの意義	27
(2) 「手厚い支援を必要としている子ども」に焦点をあてることの意義	27
(3) マニュアルではなく「考えることをサポートするツール」を	
目指すことの意義	28
(4) 子どもに関わる関係者が「共有できるツール」を目指すことの意義	29
2. 情報パッケージ（試案）の作成	32
(1) 情報パッケージの項目と構成	33
(2) 情報パッケージのコンセプトと通称	35
(3) 情報パッケージのフォーマット	36

(4) 情報パッケージの解説及び資料に盛り込むべき内容	37
3. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案)	38
IV. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) の活用とその成果	39
1. 研究協力機関における活用	40
(1) 学校全体の取組に位置付けた活用	41
1) 青森県立弘前第二養護学校	42
2) 愛知県立岡崎特別支援学校	51
3) 香川県立高松養護学校	62
(2) 職員研修・人材育成等における活用	73
1) 京都府立宇治支援学校	74
2) 奈良県立ろう学校	81
(3) ケース検討等における活用	87
1) 横浜市立東俣野特別支援学校	88
2) 横浜市立盲特別支援学校	94
(4) 教員個々における活用、興味・感想等の分析	101
1) 北海道室蘭養護学校	102
2) 福島県立平養護学校	108
2. 「ぱれっと (PALETTE)」(試案) 活用による教員の教育実践及び意識の変化 ～アンケート調査の分析から～	113
V. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) の改良に向けて	131
1. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) への協力者等からのコメント	132
2. 改良に向けての検討	135
VI. 総合考察	137
研究体制	143
資料	145
資料 1 重複障害教育に携わる教員の専門性のあり方とその形成に関する一考察 ～複数の異なる障害種別学校を経験した教員へのインタビューを通して～	
資料 2 ぱれっと (PALETTE) ・重度・重複障害のある子どもの実態把握、 教育目標・内容の設定、及び評価等に資する情報パッケージ (試案)	別冊
資料 3 「ぱれっと (PALETTE)」を活用した教員の意識調査 - 調査用紙等	
資料 4 第 52 回日本特殊教育学会ポスター発表 原稿	